

保健医療福祉連携論

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：必修 履修年次：3 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：准教授・越納美和

科目担当者（職位・氏名）：助教・太田ゆきの 助教・阿部鮎美

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：58

■ 授業概要

保健医療福祉の動向（変遷と現状）から、連携の意義、看護の役割を教授する。
看護職が保健医療福祉活動を実践する際に必要となる他職種との連携について、他職種の役割、連携方法について教授する。

■ 到達目標

1. 「連携」の基盤となるケア・スピリットについて考察し言語化できる。
2. 地域ケアシステムについて概要を説明できる。
3. 連携していく機関と他職種の専門性や機能を理解し、説明できる。
4. 看護師に求められる「連携」を促進する方法について理解し、説明できる。

■ 教育内容

地域・在宅看護論、公衆衛生看護活動展開論

■ キーワード

地域包括ケアシステム、地域医療、地域共生社会、多職種連携

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	保健医療福祉の動向・展望	授業オリエンテーション 地域共生社会の実現を目指す背景 地域共生社会の実現への展望 講義・グループワーク	越納
2	多職種連携の意義と方法① 介護福祉の連携 地域包括支援センターの連携	事例紹介 講義・グループワーク	越納
3	生活の場における多職種連携 住民との連携の実際	くらしの研究室 代表 星 真土香 先生 講義	越納 ゲストスピーカー
4	多職種連携の意義と方法② 外来看護における継続支援	外来看護師の役割と連携 事例紹介 講義、個人ワーク、グループワーク	太田
5	多職種連携の意義と方法①	多職種連携の実際 グループワーク	越納 太田
6	多職種連携の意義と方法②	多職種連携の実際 グループワーク	越納 太田
7	多職種連携の意義と方法③	多職種連携の実際 グループワーク	越納 太田
8	保健医療福祉の連携の展望と課題	グループワークの発表 授業のまとめ	越納 太田

■ 履修条件

地域・在宅看護学概論を履修していること。

■ 成績評価方法

授業態度（10%）、グループワーク（20%）、レポート（70%）、

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

講義中にコメント等を行う。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア

■ 参考書・参考資料等

授業内でその都度、紹介する

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業1コマにつき、事前・事後学修としてそれぞれ90分程度必要とする。
- ・事前学修として、指定された範囲の教科書を読み、質問事項をまとめておくこと。
- ・事後学修として、授業時配布資料とノートを読み、内容が理解できているかどうかを確認すること。

■ 担当教員からのメッセージ

保健・医療・福祉の連携は地域包括ケアシステム実現に不可欠です。他職種の専門性や機能を理解し、多職種連携の中で看護師に求められること学びましょう。そして、地域・在宅看護学実習Iに活かしましょう。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

越納：研究室 22 koshinou★iwate-uhms.ac.jp

太田：研究室 24 yoota★iwate-uhms.ac.jp

阿部：研究室 6 ayuabe★iwate-uhms.ac.jp

オフィスアワーは特に定めないが、事前にメールでご連絡の上、訪問のこと。

(※メールの際は★を@にしてください)

佐藤：講義終了後の時間を設定します。その他は学務課へお問い合わせください。

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

無

■ 実務経験を活かした教育内容

病院や訪問看護ステーション、外来での実務経験を活かし、専門的で実践的な講義を行います。